

Plan Do See

『家庭での教育・共育・協育』

朝日町教育委員長

永井 嘉隆

子どもの教育に「家庭教育」と「学校教育」の双方が重要であることには間違いがない。

国会で野田聖子氏の「子どもは親が育てるのか、社会が育てるのか」の質問に、野田総理は『親が育てるのが基本。だが社会全体で子育てを支えることも時代の要請だ』と答えている。こんなことが国会で議論されること自体に違和感を感じるが、最近の新聞は子どもに最も重要である教育だけでなく、しつけなどもアウトソーシング、他人任せにしている人が増え、逆に親の目線から過保護になったり子どもの考え方を束縛していると報じていた。



小学生は小学生の、中学生は中学生らしい目線でものの見方や行動をしているはずで、子どもなりの責任と権限があることも家庭の中でしっかりと教えてほしい。親子の年齢差は生涯変わらないが子どもの成長は驚くほど速い。その毎日成長していることを褒め認めてやって、親と子の関係も日々成長して行くことが大切だと思う。また子どもは大人とは違った素直な挑戦力と好奇心をもっている。初めてのゲーム機やスマートフォンも自由に使わせるとかなり早い速度で使いこなしてしまう。初めは分からないのでいろいろ行き詰ったりするが、失敗を恐れず何回かいじくっているうちに使いこなしてしまう能力をどの子どもももっている。子どもがいろいろ挑戦するのは知らない世界を知りたがっているからで、「お前には無理」と親の視点で子どもの好奇心をいつの間にか奪ってはいないだろうか。「ちょっと無理かもしれないが、こうしてみたら」「無理なところは手伝ってやるよ」の一言できっと子どもなりに考えて前向きに取り組んでくれると思う。

集団登校する子どもたちの列に車が突っ込んで多くの子どもたちに死傷者が出る大惨事が相次いだ。無謀なドライバーにも注意を払わねばならない恐ろしい時代である。通学路や子どもたちが出入りする施設などに安全喚起の注意書きなどがしてあるのを良く見受けるが、本当に子どもたちの目線で書いてあるのだろうか。一例であるが、ある温泉施設の浴槽に「お湯の排水口を覆わない」、「水風呂心得」、「虚弱な人」の様な注意書きがあった。小学校低学年の子どもたちにこの漢字が理解できるのだろうか。一番注意してほしい子どもたちに分かるように書いてあるとは思えない。事故が起きてから反省しても遅すぎるので、今一度周りを見直して頂きたい。親も機会をつくって子どもと一緒に通学路や遊び場を、子どもと同じ目線で危険個所のチェックや安全指導をしながら歩くのも、きっと家の中とは違ったいい会話や親子関係ができると思う。

これらは、活きた『共育』、『協育』で日常生活の中で体得させれば効果が倍加する。

「夢見ない人は夢の実現はできない」と言われている。ぜひ子どもたちには『生きる大切さ』と共に『大きな夢と勇気』をもたせて頂きたい。家庭、学校でも地域でも夢を多くもたせることは大きな責任の一つと考える。

朝日町の頑張る先生！！ 若いホープの先生たちです。

「できることから」

朝日中学校 教諭 嘉志摩 優作

私が朝日中学校に赴任して4年になりますが、現在も毎日続けていることが一つだけあります。それは、教室の机と椅子を揃えることです。始めるきっかけは、些細なことでした。教室の花が枯れ、机、椅子が乱雑に並んでいるのを見て、「自分の部屋ならこんなことはないのに。」と思ったからでした。きれいに並べてみると、別の教室のように感じました。自分の部屋ではありませんでしたが、その作業をしているときに、きれいに並んでいく机と椅子を見ていると、何か心地よさを感じることができました。それから毎日続けています。



サッカー日本代表、長谷部選手の「心を整える」ではありませんが、「環境を整える」ことは自分の性格に合っていたのかもしれませんが、それに、生徒には気付いてもらえなくてもいいと思っています。自己満足のようなものかもしれませんが。でも、生徒がいなくなった教室に一人でいる数分間、実は、今ではとても大切な時間になっています。環境を整えながら、自分の心を整えているような気がするからです。始めた当初は、そんなことを思いもしませんでした。気のせいかもしれませんが、私の担任している生徒は、整理整頓が上手になってきているように感じます。

自分も生徒も心が落ち着く、そんな環境で学校生活を送ってほしいと思っています。これからも、自分にできることを生徒のために続けていきたいです。

「子どもとの会話」

朝日中学校 教諭 松田 明大

今年度、2年生の学級担任を務めています。子どもたちといろいろな話をしている時間が、私にとって今一番「学校の教師をやっているな」と思える時間です。

「今日は子どもたち何人と話せるか」そんなことを考えて、毎朝教室に向かいます。目標は自分のクラスの生徒36人全員、2年生の生徒109人全員…とは思ってみるのですが、これがなかなか難しく、だからこそ、朝の挨拶に始まり、休み時間の教室、ランチルームでの昼食など、子どもと過ごす時間の一つ一つを大切にしていきたいと考えています。



子どもたちから、今関心のあること、部活動のこと、友達のこと、勉強のこと、悩み等いろいろな話を聞きます。子どもが何を考えているか知ることで、逆に自分が教えられることが多々あります。また、勉強、部活、学校行事にと、追究する熱意に関しては大人以上という生徒がたくさんいます。そうしたがんばる子どもたちを見ていると、自分も負けてられないなと思います。その子どもが伸びるために自分もがんばらなければならないと思います。

朝日中で先輩の先生方を見ていると、子どもの話をよく聞く先生がたくさんおられます。ちょっとした表情の変化を見逃さず子どもの異変に気づく先生、子どもが安心して悩みを話せる先生がたくさんおられます。それらの先生とかがかわることで、伸び伸びと学校生活を送っていたり、生徒が明るい表情になって帰っていったりするのを見ると、自分もそんな教師になりたいと思います。毎日の子どもたちとのかかわりを通し、教師としての力を高めていきたいと思っています。

算数科で「時こくと時間」の学習をしていたときの事です。

「先生、わからんから、ちょっときて。」とM児。「いいよ。どこ、わからんってなったん？」「あのねえ、・・・。」N児は真剣な表情で時計とにらめっこをしています。「Nさん、だいじょうぶ？」「うん。今、やっとするから。」S児は「なんか、わかったような気がする。」と満足そうな表情で書き進めています。「これで、あつとる？」と心配そうにドリルを見せに来るH児。「できた。先生、丸つけして。」とM児。



だんだんと課題を仕上げる子どもが出てきた中、突然N児が泣き出しました。「どうしたの？」と尋ねると、「先生、ぼくにだけ教えてくれん。」と言うのです。「えっ。」言葉がつかまりました。「分からん。」「教えて。」と自分で言える子どもたちや、なかなか書き進めていない子どもたちにばかり声をかけ、勝手に「この子は分かっているから」とのぞき込むだけで通り過ぎてしまっていたのでした。「今、やっとするから。」と言ったN児は私が声をかけたときは、「だいじょうぶ」だったけど、その後、自分で考えていても分からなくなってしまうということに気づくことができませんでした。一人一人を見つめることの難しさ・大切さを教えられました。

学力向上市町村教育委員会プラン研究事業 研究校から

「一人一人が伸びるために」 あさひ野小学校 研究主任 目澤 恵子

本校では、昨年度「言葉を通して自分の考えを伝え合う子どもの育成」を目指し、研修を進めてきました。それまでも継続的に表現する機会が多くなるように工夫してきましたが、さらに自分の思いや願いを大切にしたい表現する場を工夫したことで、より主体的な活動へと高めていくことができました。



今年度は、確かな学力を育成するために、学力の向上と人間関係づくりを一体的に進める「学び合い」と実感をつなぐ理解につながる「体験」を重視している「学力向上市町村教育委員会プラン研究事業」の指定を受けました。昨年度まで育んできた伝え合う力がよりいっそう高まり、一人一人にとって確かな学びになるように、ねらいを明確にした話し合い活動を位置づけた「関わり合う授業づくり」と「一人一人が生きる活動の工夫」を柱に研修に取り組んでいきたいと考えています。

今年度は担任が替わった学年が多く、4月と5月はじっくりと子どもの実態を把握し、6月からいよいよ授業実践を進めていきます。担任と子ども、子ども同士が互いに認め合う支持的な風土をもった学級づくりが豊かな心を育て、一人一人の確かな学びの基盤をつくると考えます。今はまだ、それぞれの担任が把握した子どもの実態に合わせて、基本的な力を高めるためのスキル学習を中心に取り組んでいます。今後、基礎的・基本的な力と互いに認め合う温かい学級経営を生かしながら、学力向上を目指します。

さて、先にも述べたように、今はまだ実践研究に至っていないのですが、昨年度までの成果を生かし、毎週行っているミニ集会などの全校集会では、今年度も子どもたちが生き生きと発表しています。体育大会の練習などで十分な時間の確保が難しい中でも、5・6年生が進んで提案を行い、準備し実践を重ねています。活動の振り返りでも、個人の役割が上手くできたかどうかだけでなく、全校のみんなが満足できたかどうかを考え話し合っている様子に、今後の成長を期待するとともに、教師の支援の大切さを改めて感じます。

授業力アップ研修会 ① (外国語活動)

新しい外国語活動教材「Hi, friends!」の特徴や構成のポイントを知ることが目的でした。模擬授業を受けながら、東部教育事務所 外国語活動指導員 庭田順子先生と34名が学びました。挙手して発言する先生たちの積極的な姿があって、講師も「みなさんがとても温かい雰囲気です。研習会に積極的に参加して下さったことで、私もリラックスしてお話しすることができました。ありがとうございました。」と話しておられました。



参加者の先生の感想

- 講師の先生が、温かい雰囲気です。指導して下さったおかげで、英語に対する不安が少しとれました。今日の研修のような雰囲気を作って授業できればいいです。
- 「Hi, friends!」はDVDになって使いにくいなあと感じていたのですが、なかなか使えるし、よく考えてあるなあと感じました。今度じっくりと各機能を使ってみたいと感じました。

- リスニング専用CDは各小学校に配布いたしました。
- 「Hi, friends!」のDVDは、パソコンにインストールして使うと、かなり速く動くようです。

小・中生徒指導研修会 (朝日中学校の1年生の授業参観を通して)

5月29日(火)に第1回の小・中生徒指導研修会が行われました。中学校1年生の5つの教室の授業を参観させていただき、新1年生の現状について、澤木センター所長代理、各校の生徒指導主事、6年生時の担任の先生、三井1学年主任、梅澤カウンセリング指導員、上波スクールソーシャルワーカーを交えて、情報交換をいたしました。授業を終えられた1年生の5人の担任の先生にも参加してい

ただき、たいへん実り多い研修会になりました。参観した方からは、中学生となり、背筋を伸ばして授業に真剣に参加する姿に感心する声がたくさんありました。朝日中学校の先生方、ありがとうございました。



センター事業の案内

あの講師が来てくれます

朝日町小中学校教育講演会 6月22日(金)
北陸学院大学 教授 金森俊朗 先生

金沢市内の小学校の教師だった金森先生。末期がんの患者を教室に招いたり、鶏を殺して食べる「命の授業」が有名です。でも、何よりも子どもが本音で語り、仲間を本気で助ける「学び合う」学級づくりに取り組んできた教師としての学級物語がすごいのです。国語の授業実践も多く、当日はどんな話が聞けるのでしょうか。町外からの申込みも届いています。



道徳の授業に関する講演会 8月24日(金)
山形市立宮浦小学校
道徳のチカラ代表 佐藤幸司 先生

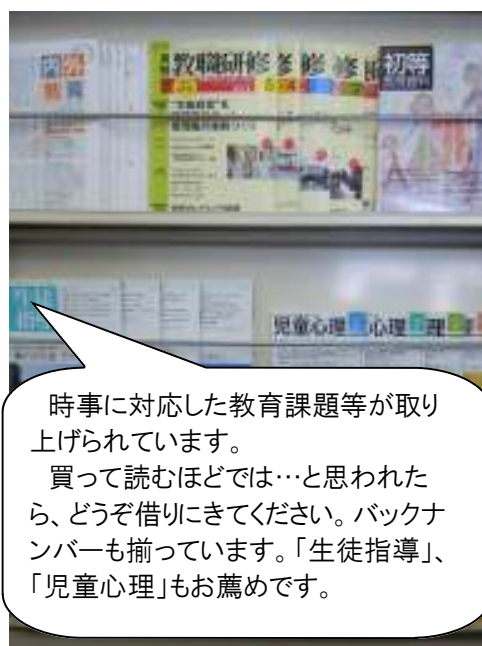
副読本の教材を使い、登場人物の気持ちを問う「基本型」の道徳に疑問を感じ、自分で道徳教材をつくり始めた佐藤先生。その本数は150本を超え学級づくりの達人でもあり著書も多々あります。

会場は入善町、担当は朝日町です。☆魚津地区センター協業事業



センターにある教育雑誌

以下の6雑誌を定期購入しています



時事に対応した教育課題等が取り上げられています。
買って読むほどでは…と思われたら、どうぞ借りにきてください。バックナンバーも揃っています。「生徒指導」、「児童心理」もお薦めです。



センターにある本

●6月22日の「朝日町教育講演会」の講師である金森俊朗先生の本。



- 「子どもの力は学び合ってこそ育つ」
- 「子どもたちは作家になる」
- 「金森俊朗の子ども・授業・教師・教育論」
- 「いのちの教科書」の4冊があります。他に金森先生の書籍は多数発売されています。

●8月24日に「道徳の授業に関する講演会」で講師をお願いしている佐藤幸司先生の本。



●教育書の大ヒットシリーズ「とっておきの道徳授業」。このシリーズの編著が佐藤幸司先生だったのは驚きです。明日の道徳の授業に困ったら…助けられました。学級経営の本も名著。学級づくりに行き詰まったら、きっと力をくれます。

センターにほしい本



●北海道の中学校教諭「石川晋」先生の最新刊。国語の先生なのに合唱指導は圧巻です。「本気で新しい国語教育を作って行こうという気概を持って、一緒に取り組んでいきたいですね。本書は、きっと、そのための力になれると思っています。(石川先生談)」



●クラスの価値基準はただ1つだけ。“そのことが、自分も含めたみんなのハッピーにつながるかどうか”。超個性的な実践で全国から注目を集める若手教師「金大竜(きむてぎよん)」が、その学級づくりのすべてを初公開！教育界の新しい風で

○ 朝日町教育センター運営委員

校長会 代表 村田 博史
 小教研 代表 林 清唯
 教頭会 代表 林 真也
 教務主任会 代表 林 和子

○ 郷土教育教材開発研究調査員

さみさと小学校 大菅 和世(委員長)
 さみさと小学校 梨木 宏子
 さみさと小学校 梅津 陽
 あさひ野小学校 吉本裕佳里
 朝日中学校 谷口正浩

○ 情報教育研究調査員

あさひ野小学校 水島 祐司(委員長)
 さみさと小学校 兵庫 秀典
 さみさと小学校 荒木 淳平
 あさひ野小学校 長谷川早苗
 朝日中学校 宮野 哲章
 朝日中学校 山田 智徳

★★ おでかけ民具 ★★民具貸し出し

「まいぶんKAN」の民具が整理され、不要な物をセンターの倉庫で保管しています。「学校であれば、貸し出していい」との許可をいただいています。壊れても大丈夫です。生活科、社会科、総合的な学習の時間等の教材、学習環境づくりにご利用ください。たくさんの本物があります。いつでも、ご覧に来てください。



編集後記

教育センターが現在の場所に移転して、1年が過ぎました。一番よく言われるのは、「朝日町の教育センターってどこにあるの。」です。そして「そんなところに建物あった。」という声ももれなく付いてきます。

センター(中)という名前ですが、その存在感はとても薄いようです。これまでのセンターだよりを読んでみると、「子どもたちのために頑張る教師たちが、教育センターを中心にスクラムを組んで活動することを念願しています。」という退職された先生のお言葉があり、宿題をいただいたように感じました。

資料、指導案の貸し出し、授業案検討会等の会合に教育センターを利用していただければ幸いです。ところで、センターの場所は、わかりますよね。

- 6月 1日(金) 郷土教育教材開発研究調査員会②
 - 6月 7日(木) 理科教育講座(自然観察)【魚津市周辺】
 - 6月12日(火) 児童生徒作品展実行委員会
 - 6月19日(火) 小中高生徒指導連絡協議会①
 - 6月20日(水) 学力向上推進委員会(研究主任会)
 - 6月22日(金) 朝日町教育講演会 講師 金森俊朗先生
 - 7月 4日(水) 情報教育研究調査員会②
 - 7月11日(水) 外国語活動推進委員会②
(朝日中1年生の英語授業参観)
 - 7月12日(木) 学力向上推進委員会【分析部】
 - 7月27日(金) 生徒指導講演会【新川文化ホール】
 - 7月30日(月) 授業力アップ研修会
午前:理科 午後:学級活動・生徒指導
 - 8月 2日(木) 「講師」に学ぶ講演会【宇奈月小学校】
 - 8月 3日(金) 学力向上プログラム研修会
 - 8月 6日(月) 情報教育研究調査員会③
 - 8月 7日(火) 情報教育研修会(午前/午後)
 - 8月 8日(水) 現地学習会(午後)兼郷土教育調査員会④
 - 8月 9日(木) 学校教育運営研修会①(午後)
 - 8月10日(金) 朝日町小中高校教育講演会
 - 8月17日(金) 学校教育運営研修会②(午後)
 - 8月24日(金) 道徳の授業に関する講演会(午後)
- ☆枠線で囲まれた項目は、研修会です

発行：朝日町教育センター

〒939-0743

富山県下新川郡朝日町道下1053番地1

TEL/FAX 0765-83-0279

E-Mail asahi-ec@tym.ed.jp

ウェブサイト <http://www.asahi-c.tym.ed.jp/>

●●朝日町教育センター職員●●

所 長 永井 孝之

(朝日町教育長)

所長代理 澤木 昇

(さみさと小学校校長)

所 員 内山 真之

助 手 大菅 栄子